

1. 教育研究の目的・構成・取組み

1.1 学校法人金沢工業大学建学綱領

(1) 本学園の使命

日本の学校教育法は「大学は、学術の中心として、広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道德的及び応用的能力を展開させることを目的とする。」「高等専門学校は、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。」と述べています。

また、アメリカの故ケネディ大統領は、1963 年 6 月 10 日、アメリカン大学の卒業式において『平和の戦略』と題する演説を行いました。この演説はあの有名なリンカーン大統領の『ゲチスバーク演説』に比すべき歴史的な演説といわれています。彼はその中で「この地上にあるもので大学ほど美しいものはないであろう。大学は無知を憎む人々が知ることに努め、真理を知っている人々が、他の人々の眼を開かせようと努める場であるからである。」と、彼らしい格調の高い言葉を引用して大学の使命を語っています。

これら二つの表現において、学校教育法は学理的に、ケネディ大統領は高踏的に、それぞれ大学の使命を定義づけています。たしかに、大学は学術の中心であって、常に高度の教育実践と斬新な研究活動を行い、日本及び世界学術の進歩と国際文化の向上に寄与することを使命とし、高等専門学校は、産業日本の発展を担う優秀な技術者を育成することを使命としているのであります。

(2) 教育原理の焦点

さらに、一般的教育とは、哲学者フヒテの唱えるように、人間自身を形成することであり、人間を彼自身たらしめることであります。また、教育学者ナトルプのいうように人格を陶冶することでもあります。陶冶とは個人の完全なる形成を意味します。

それゆえ、学園の使命を具体的に挙げれば、人間形成、学術探究及び職業教育の三つの項目を数えることができます。この三つの項目は、いずれも重要な意義を持っていますが、窮極においては、人間形成に重点を置いているのであります。要するに、学術探究、職業教育によっても人間形成は可能ではありますが、人間形成を除外して、学術探究も職業教育もありえないのであります。したがって、使命の本質は、最高の知能と深奥な教養のある指導的人間の育成の場であると断言してよいと思うのであります。

このように、学園を人間形成の場として重視すれば、学生生活はただ単に教室、実験室及び図書館にのみあるのではなくて、その文化活動、体育奨励、寮生活の指導、厚生施設、衛生管理、生活相談及び就職斡旋などあらゆる部門、すなわち常住坐臥そのものが重要な意義を持つことになります。

(3) 学園共同体の倫理

以上の観点に立てば、人間形成ということは、官学たると私学たるとを問わず、およそ共通の最大の使命であります。特に私学においては、教育の担当者は、ひとり教授のみならず、広く理事者及び職員をも含むべきことを理解せねばなりません。したがって、本学園においては理事、教職員及び学生の三位一体の学園共同体を築き上げることによって、真に人間形成の場となし、民主主義日本の期待する人間像の生まれ出る温床とすべきであります。

しかも、私学は官学に比較して、私立学校法によって一定の基準を守り、監督を受けねばならないとしても、複雑な法的規制や煩瑣な官僚統制を免れて、はるかに自由な立場にあります。戦前においては、私学に対する当局の監督統制は、今日よりは、はるかに厳格を極めていましたが、それにもかかわらず、私学は、それぞれ独自の伝統と堅実な学風を育て上げたのであります。

いずれの私学においても、その経営の企画と財政の確立のために多大の苦慮を払いながら、なおかつ香り高き矜持を失わないのは、実にこの自由の立場が存在するからであります。それゆえにこそ、本学園においては、技術時代に先駆する革新的な産学協同方策を高く旗標として掲げて、経営管理の最高責任者である理事会は、教育研究の直接担当者である教職員及び研学当事者である学生の全面的な協調を得て、その抱負経綸を実現するため、私学の特長を遺憾なく発揮して縦横自在な活動を行い、高邁な学風を築かんとするものであります。

見られよ。古き校史に彩られた私学の中には、その創設者の人格と識見によって建立され、長き歳月と烈しい風雪に耐えて鍛え上げられ、独自の伝統と質実な学風を誇っているものが数多く存在しているのであります。例えば早稲田大学における大隈精神、慶応義塾大学における福沢精神、また、同志社大学における新島精神のごときであります。本学園においても、ここに述べる建学綱領を基盤として日本の学界に垂範する崇敬に値する風格を樹立せねばなりません。

(4) われらの行く栄光の道

戦後におけるわが日本の経済的発展は、敗戦というおなじ運命を辿り、ともに復興の道を進んだ西ドイツの奇蹟的發展を、はるかに凌駕する神秘的發展を遂げたのであります。この偉大な成果は日本人の知能と技術と勤勉の総合的所産であります。

いまや、本学園はこの偉大な民族的栄光をバックボーンとして、郷土石川県、北陸三県、中部圏及び日本海沿岸地区の地域開発のための学術的母体と技術的基地の主役を演ずるとともに、さらに世界市場に挑戦する産業日本の要求する最優秀な技術者と最上級の経営者を養成すべき重責を双肩に担っているのであります。

進んで将来は、現代アメリカの科学技術の聖地ともいべきマサチューセッツ工科大学の運営方針に学んで、日本の宇宙開発より産業社会学に至るまで、最高水準を誇る第一流の学園たらしめんとする大志を実現して、民主主義日本の学界に偉大な栄光を捧げんとするものであります。われわれは、この国家的至上使命を遂行するために本学園のあらゆる機能を結集して、その共同的総力を挙げて精進する決意を持たなければなりません。

昭和 40 年 2 月

(5) 三大建学旗標

金沢工業大学及び国際高等専門学校は、学生、理事、教職員が三位一体となり、学園共同体の理想とする工学アカデミアを形成し、学園創設理事である泉屋利吉翁が定めた三大建学旗標の具現化を目的とする卓越した教育と研究を実践し社会に貢献します。

高邁な人間形成	我が国の文化を探究し、高い道徳心と広い国際感覚を有する創造的で個性豊かな技術者・研究者を育成します。
深遠な技術革新	我が国の技術革新に寄与するとともに、将来の科学技術振興に柔軟に対応する技術者・研究者を育成します。
雄大な産学協同	我が国の産業界が求めるテーマを積極的に追究し、広く開かれた学園として地域社会に貢献します。

1.2 教育目的・教育目標

(1) 教育目的

本校および各学科における教育目的は次のとおりです。

国際高等専門学校学則「第3章 組織及び定員 第6条、第6条の2」より

第6条 本校に国際理工学科を置く。

第6条の2 国際理工学科は、グローバルに活躍するイノベーターの素養を身につけた創造的・実践的技術者の養成を目的とする。

ICT Vision 2030 ～未来を創造し世界で輝くグローバルイノベーターを育てる高専～

国際高等専門学校（ICT）は、前身である金沢工業高等専門学校が築いてきた 60 年に渡る教育研究基盤を礎とし、新たな教育目標のもと時代とともに進化発展しました。授業は原則英語で行い、1・2 年生は白山麓キャンパスでのボーディングスクール（全寮制教育）、3 年生は海外留学を経験し、4・5 年生は金沢工業大学（KIT）と連携した共創教育（ICT/KIT スクールシステム）を通じて、世界で活躍できる理工系人材の育成に取り組んでいます。

これまでの国際高専としての 8 年間の教育成果を踏まえ、2030 年に向けて、私たちは「ICT Vision 2030」を掲げ、さらに進化した高専教育の実現を目指します。

【教育目標】 「グローバルイノベーターを育てる」

【Educational Goal】 “Fostering Leaders of Global Innovation”

ICT Vision 2030 が描くグローバルイノベーター（世界で活躍できるエンジニア）とは、理工学の知識を使って問題を発見し、解決策をカタチにするとともに、国際共通語である英語を駆使して仲間と共に新たな社会価値を創出できる人を指します。また本校では、自身の考えを日本語と英語で説明できる力も身につけます。

そして、グローバルイノベーターは、多様な文化や価値観を尊重しながら、より良い社会をつくるために行動できる力を持つ人です。

1. グローバルイノベーターに必要な資質とは

グローバルイノベーターに必要な能力は、「行動力」「社会性」「協働力」「多様性」「知的成長」に集約できます。ICT では、グローバルイノベーターは以下に示すような能力を備えるとともに、これらを日本語と英語で表現し実践できる人と考えています。

1. 挑戦と創造力（新しいことに挑戦し、アイデアを形にする力）
2. 社会貢献と倫理観（社会に役立つことを考え、正しい判断ができる力）
3. 協働とコミュニケーション力（仲間と協力し、わかりやすく伝える力）
4. 多様性理解と自己表現（いろいろな文化や価値観を尊重し、自分の考えを表現する力）
5. 科学的思考と継続的学び（事実に基づいて考え、学び続ける力）

2. 理工系リベラルアーツ教育の進化

考える力とつくる力を育てる教育

不確実性が高まる社会において、教育の中心は単なる知識の獲得ではなく、問題発見・解決の思考方法やそのプロセス、そして自ら考える力を育むことにあります。ICT では、AI・IT・モノづくり・ビジネスの基礎を学び、創造的なチーム活動を通じて問題解決力を養う「エンジニアリングデザイン」を柱に、英語による理工学思考力を育む「English STEAM」、地域創生活動などを通じて人間力を鍛える「課外活動プログラム」を統合・拡張した、以下に示すような理工系学生のためのリベラルアーツ教育を実践します。

- ・ 問題を発見し、解決策を考える力を育てます。
- ・ 英語でリベラルアーツおよび理工学を学び、世界の人々と協働できる力を養います。
- ・ STEAM 教育により、理工学の幅広い知識・スキル・感性を修得します。
- ・ SDGs を基盤に、さらに未来志向の社会的課題に取り組みます。
- ・ 「エンジニアリングデザイン」を通じてアイデアをカタチにする手法を学びます。
- ・ スタートアップの概念から革新的な技術やビジネスモデルを生み出す手法を学びます。
- ・ 工学教育の世界標準である CDIO（Conceive-Design-Implement-Operate）の理念を取り入れた社会実装型教育を展開します。

3. グローバル教育のさらなる充実への挑戦

国内外で学ぶ経験を

- ・ 教員の約半数が外国人である強みを生かし、英語を「道具」として使いこなすとともに、世界の人々と協働できるコミュニケーション力を身につけます。
- ・ 1 年間の海外留学を通じて、異文化を体験するとともに、海外で学べる専門分野を広げるため、新しい留学プログラムを開拓します。
- ・ 正課授業のみではなく、課外活動やコトづくりも英語で行います。

- ・ 夏季休暇期間などを利用した短期海外留学プログラムを充実させます。
- ・ 海外の学校や企業との提携・交流を広げ、国際的な視野を育むために、長期海外インターンシップ（コオプ教育）などの体験型プログラムを推進します。
- ・ ユネスコスクール加盟の利点を活用し、世界的な学校ネットワーク「ESD（持続可能な開発のための教育）推進校」との交流を進めます。
- ・ 卒業後に海外の大学へ進学する学生への支援強化、国外企業への就職などグローバルに活躍できる人材を育てます。
- ・ 海外渡航が難しい場合でも、オンラインで海外の学生と学ぶ仕組みや国際共同授業を通じて、世界中の学生とリアルタイムで学び合うことができる、オンライン国際交流プログラムを開発します。

4. ICT/KIT スクールシステムの活用

未来のエンジニアを育てる仕組み

- ・ 1st Stage : 1・2 年生は、自然豊かな白山麓キャンパス（ボーディングスクール）で学びます。
- ・ 2nd Stage : 3 年生は、1 年間の海外留学・ホームステイを経験します。
- ・ 3rd Stage : 4・5 年生は、KIT の研究室へのインターンシップまたは企業インターンシップに参加します。
- ・ 4th Stage : 国内や海外の大学に編入学し、高度な研究環境でイノベーションプロジェクトに取り組みます。

特に、KIT に編入学を希望する学生は、ICT（5 年間）と卒業後の KIT での 3・4 年次（2 年間）と大学院博士前期課程（2 年間）による 9 年一貫教育を通じて、「グローバルイノベーターの育成」を推進する「ICT/KIT スクールシステム」を活用することができます。

5. 学生と教職員が成長できるラーニングコミュニティづくり

多様性を大切にするキャンパスライフ

ラーニングコミュニティとは、学生と教職員が主体的に学び合い、人間力を高め合う場です。このコミュニティでは、個性と多様性が尊重され、活気と彩りに満ちた以下に示すようなキャンパスライフを創造します。

- ・ 入学から卒業・修了までをしっかりサポートする仕組みを整えます。
- ・ 留学生には日本語教育支援を行います。
- ・ いろいろな国や文化の異なる仲間と学ぶダイバーシティが確立された学びの場をつくります。
- ・ 教職員も学生と共に学び続ける姿勢を大切にします。
- ・ 地域と連携したプロジェクトを通じて、社会実装への取り組みに貢献します。

ICT Vision 2030 では、2018 年にスタートした日本国内で唯一、英語で授業を行う高専教育研究をさらに進化させ、未来をつくるグローバルイノベーターを育てていきます。皆さんが「挑戦してみたい！」と思えるような学びの場を、ICT はこれからも提供し続けます。

ICT Vision 2030 は、https://www.ict-kanazawa.ac.jp/ja/about/ict_vision_2030/に掲載しています。

1.3 学科

■ 国際理工学科

(1) 入学定員及び収容定員

入学定員は、国際理工学科 35 名で、令和 8 年度の収容定員は表 1 - 1 のとおりです。

表 1 - 1 令和 8 年度入学定員及び収容定員

学科名	入学定員	収容定員
国際理工学科（第 1 学年～第 5 学年）	35	185 [※]

単位：人

※入学定員は令和 2 年度より 90 名から 45 名へ、令和 5 年度より 45 名から 35 名にそれぞれ変更

1.4 三つの方針について

(1) 入学者受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）

国際高等専門学校は、建学の綱領に掲げる「高邁な人間形成」、「深遠な技術革新」、「雄大な産学協同」の理念に基づき、「グローバルイノベーターの育成」を教育の目標としています。

グローバルイノベーターの素養をしっかりと身につけるため、1 学年・2 学年は全寮制教育により自らが持つ資質や多様な能力の向上を目指し、3 学年では海外に専門留学（工学）をすることによりグローバルに活躍できる知識やコミュニケーション能力の強化を図り、4 学年・5 学年は、金沢工業大学と専門分野やプロジェクト活動において連携することで、最大の成果を生む教育を実践します。新たな価値を創出できる科学技術力とともに、グローバルに活躍できるコミュニケーション能力・社会に貢献できる人間力を備えた「グローバルイノベーターの育成」を目指します。

さらには、「学園共同体が共有する価値」に基づく、行動規範である KIT-IDEALS に共感し、自らの自己実現を目指す者の入学を求めています。

求める学生像

1. 自ら学ぶ意欲を持ち、科学技術やエンジニアリングデザインに興味・関心があり、課題発見・解決やものづくり、イノベーション（新しい価値創造）に主体的に取り組める人
2. グローバル社会での活躍に強い関心と探求心を持ち、英語によるコミュニケーション能力を高めようとする人
3. 多様な価値観を共有し、社会や地域の課題解決に意欲を持っている人

入学者選抜における基本方針

入学試験は、多様な学生を募集するため「グローバル入試」、「自己推薦入試」、「一般入試」、「自己推薦特別入試」を実施します。

「グローバル入試」、「自己推薦入試」、「自己推薦特別入試」では、本校が求める学生像に沿った人材を面接試験（1 人 30 分）、成績証明書、志望理由書等を通して総合的に選考します。

「一般入試」では、本校が求める学生像に沿った人材を学力評価試験（数学及び英語）、面接試験（1 人 15 分）、成績証明書、志望理由書等を通して総合的に選考します。

「学園共同体が共有する価値」に基づく信条（行動規範）

KIT-IDEALS

この学園に集う私たちは、学園共同体として共有すべき価値を
“KIT-IDEALS”としてまとめ、これらに基づく信条を定めました。
これを学生、理事、教職員が常に意識し、尊重することによって学園共同体の向上発展を目指します。

K	Kindness of Heart	思いやりの心 私たちは「素直、感謝、謙虚」の心を持つことに努め、明るく公正な学びの場を実現します。
I	Intellectual Curiosity	知的好奇心 私たちは「精熟、自信、信念」を持つことに努め、精気に満ちた学びの場を実現します。
T	Team Spirit	共同と共創の精神 私たちは「主体性、独創性、柔軟性」を持つことに努め、共同と共創による絶えざる改革を進め、前進します。
I	Integrity	誠 実 私たちは、誠実であることを大切にし、共に学ぶ喜びを実現します。
D	Diligence	勤 勉 私たちは、勤勉であることを大切にし、自らの向上に努力する人を応援します。
E	Energy	活 力 私たちは、活動的であることを大切にし、達成や発見の喜びを実現します。
A	Autonomy	自 律 私たちは、自分の行いを律し、1人ひとりを信頼し、尊敬します。
L	Leadership	リーダーシップ 私たちは、チームワークを大切にし、自分の役割を自覚しつつ、責任を果たします。
S	Self-Realization	自己実現 私たちは、自らが目標を持つことを大切にし、失敗に随することなくさらに高い目標に向かって挑戦することに努めます。

令和3年4月1日 学校法人 金沢工業大学



図 1-1 KIT-IDEALS

(2) 教育課程の編成方針（カリキュラム・ポリシー）

国際理工学科の教育課程は、「グローバルイノベーターの育成」という教育目標のもと、CDIO イニシアチブが提唱し国際標準とされる工学教育フレームワークに準拠しています。イノベーターに相応しい科学技術力とともに、グローバルに活躍できるコミュニケーション能力・社会に貢献できる人間力を備えた技術者の育成を目指します。

・教育課程の基本構成

本校の教育課程は、以下の 5 つの領域で構成されています。

1. 初学年教育

学修の基礎力を形成し、異文化への適応力を養うとともに、ICT スキルおよび言語運用能力の基盤を築くことを目的としています。また、学修ポートフォリオの活用や個別面談の実施を通じて、学生一人ひとりが自身の興味・関心や目標に基づく学修計画を主体的に策定・実行できるよう、支援体制を整備しています。これにより、主体的かつ能動的な学修姿勢の早期確立を促進します。

2. 教養教育

人文科学・社会科学・自然科学に関する幅広い教養、国際的視野と倫理観を涵養します。

3. 専門教育

専門知識と技術の修得を目的として、以下の 4 領域を設け段階的な学修プログラムを提供します。

- ・共創領域
- ・IT リテラシー領域
- ・工学基礎領域
- ・スペシャリストフォーカス領域

4. 国際教育

海外留学や海外コーオプロジェクトにより、グローバルに活躍するために必要な語学力と、異文化への適応力を養成します。

5. キャリア教育

インターンシップや海外コーオプロジェクトといった実践的な活動の機会を提供し、卒業後の社会的自立に向けたキャリア形成を支援します。

※コーオプロジェクトや 3 学年での海外留学は、各領域と接続された実践的学びの場として教育課程に統合されています。

・ディプロマ・ポリシーとの対応

以下の 3 領域における学修成果を通じて、ディプロマ・ポリシーが示す能力を修得し、卒業後にグローバルイノベーターとして活躍できる学びの体系になっています。

1. 社会に貢献するリーダーとしての人間力

工学基礎及び人文社会科目において、リーダーシップ・倫理観、社会的使命感を養成します。

（例：歴史文化、技術者倫理）

2. グローバルに活躍できるコミュニケーション能力

日本語・英語の言語教育、異文化体験学修、発表活動等を通じた多様性理解と伝達力を養成します。

（例：英語表現、アカデミック・イングリッシュ、海外英語研修）

3. イノベーターに相応しい卓越した科学技術力

スペシャリストフォーカス科目において専門知識及び専門スキルの修得、そして専門ゼミを通じた課題発見力・価値創造力・継続的な学修姿勢を養成します。

・学修方法の特徴と教育の質的転換

アクティブラーニング

全科目においてプロジェクト、演習、討論などを取り入れる能動的な学修を促進します。

PBL

学年をまたぐエンジニアリングデザイン教育を展開し、学際的課題に取り組みます。

グローバル対応

英語による授業と全員参加の留学を実施します。

・学修成果の評価方法

学修成果は以下の観点から、明示されたシラバスに基づいて多面的に評価されます。

1. 定期試験、小テスト、レポート、プレゼンテーション、提出物、ポートフォリオ等
2. ルーブリック評価の導入による定性的能力の可視化
3. GPA 制度による成績指標の数値化と自己評価の促進

※評価方法は授業の柔軟な設計を妨げないよう、特定方法に固定されず複数方式の併用を可能とします。

これらのうち、各科目のシラバスに明記されている評価項目を個別に評価し、それらをシラバスに記載された配分に基づいて総合し、最終的に 100 点満点で成績を評価します。

なお成績は S・A・B・C・D・F の評語で表示され、評点との関係は次の通りです。

- S (評点 90 点以上)
- A (評点 80 点以上～90 点未満)
- B (評点 70 点以上～80 点未満)
- C (評点 60 点以上～70 点未満)
- D (評点 0 点以上～60 点未満)
- F (出席不良)

各評語に対して、それぞれ S=4.0, A=3.0, B=2.0, C=1.0 のグレードポイントが付与され、単位数で重み付けして平均 (GPA) を算出します。

また、LMS (学修管理システム) やポートフォリオシステムなどの ICT ツールを積極的に活用し、授業・課題の配信、提出物の管理、学修の可視化と振り返りを支援します。これにより、学生の学修過程と成果を一元的・継続的に把握・評価できる仕組みが構築されています。

(3) 卒業認定方針（ディプロマ・ポリシー）

本校は、グローバルに活躍するイノベーターの素養を身につけた実践的・創造的技術者を養成しています。グローバルイノベーターとは、課題を発見する科学的思考力を持ち、最新の工学知識や洞察力を身につけ、創造的な解決策を用いて新しい価値を生み出す人材です。さらに、さまざまな分野の専門家たちと協働し、文化や価値観の多様性を受け入れ、グローバル社会で活躍する力を持ったプロフェッショナルでもあります。

新しい価値の発見者“イノベーター”は、工学原理、工学実践を幅広く理解していなければなりません。つまり、工学教育改革を目指す国際的組織「C D I O イニシアチブ」の「Conceive、Design、Implement、Operate」というそれぞれの段階を理解し実践する者です。具体的には、次の能力及び行動規範を身につけることを求めています。

I 社会に貢献するリーダーとしての人間力**1 革新への挑戦**

信念(高い志・強靱な意志)を持って行動し、失敗に臆することなく粘り強く挑戦し続け、自身やチームを成功へと導くことができる。

2 社会的使命感

地域社会や自然環境に関心を持ち、社会的な課題の解決に使命感を持っている。

3 リーダーとしての高潔

グローバルな環境でリーダーシップを発揮する一方で、謙虚さや他者への尊敬、思いやりを持ち、信頼される人格を備えている。

II グローバルに活躍できるコミュニケーション能力**1 コラボレーション**

チームで目標を達成するために、自分の役割と提供できる価値を認識し、積極的に貢献する。

2 多様性とアイデンティティ

多様な文化や価値観を持つ人々と協働するための教養を備えつつ、自身の考えを持っている。

3 心を動かす力

自身の考えを論理的にまとめたうえで、相手の立場や気持ちを考慮しながら効果的に伝えることができる。

III イノベーターに相応しい卓越した科学技術力**1 価値創出**

幅広い学問領域の探求とデザイン思考の実践により、これまでにない価値を創出することができる。

2 自然・社会・産業と結びつけた科学的思考

科学技術を自然・社会・産業の面から理解・分析し、自分の考えを述べるができる。

3 常に学び続ける姿勢

科学・工学の基礎を土台として、常に新しい知識・技術を獲得する姿勢を持っている。

これらの認識の下、本校の教育理念と教育目的に沿って設定された授業科目や教育プログラムを履修し、基準となる単位数を取得していることが卒業の要件です。獲得した知識を知恵（応用力）に転換できる、すなわち「自ら考え行動する技術者」として、学生自らが興味を持って計画的に学習し、考えて行動のできる学生を育成します。